

第5回 日中韓物流大臣会合共同声明**(横浜宣言)****日本 横浜****2014年8月25日**

1. 我々、中国、日本、韓国の物流担当大臣は2014年8月25日、日本、横浜にて第5回物流大臣会合を開催した。我々は、意見交換を行い、過去の大臣会合にて確認した行動計画の進捗、今後の進め方について有益な議論を行った。
2. 今日、北東アジアは世界経済活動の中心のひとつである。2013年における三カ国のGDPの総額は世界経済の約21%を占め、また、三カ国が生み出した貿易総額は約6.6兆米ドルであり、世界貿易総額に対して約18%を占める。日中韓三カ国の経済関係が深化する中、三国間における物流の重要性は高まっている。
3. 我々は、過去4回の大臣会合を通じて、「シームレス物流システムの実現」、「環境にやさしい物流の構築」及び「安全かつ効率的な物流の両立」という物流分野の協力の三大目標を設定し、上記目標を達成するため、12の行動計画を決定した。我々は、12の行動計画についてさらなる成果を得るため、共同のワーキンググループを構築・運営し、各行動計画に従って実際的な協力方法を発展させ、この実行に努力することにより、満足のいく結果を得た。
4. 日中韓三国間の物流分野の協力の目標を達成するため、「行動計画の進捗と今後の計画」についてこれを承認するとともに、継続的な協力に向けて以下について合意に達した。

4.1 シームレス物流システムの実現

- 4.1.1 シャーシの相互通行は、陸上輸送と海上輸送を連結し、物流の効率性やスピ

ードを向上させるにあたって重要な役割を果たすものである。したがって、我々はシャーンシの相互通行に向けて、継続的に以下の通り努力する。中国と韓国は、過去に署名した協定に基づき、シャーンシの相互通行を活性化させる。日本と韓国は、既存のパイロットプロジェクトを拡充するとともに、荷主・物流事業者等のニーズを踏まえながら、新たなパイロット事業の実施の可能性について検討を行う。中国と日本は、パイロットプロジェクトの実施に向けた共同研究を進める。日中韓三国は、将来的に当該三国間のトレーラーシャーンシの海陸一貫輸送を実現するために努力する。

4.1.2 日中韓三国は、北東アジア物流情報サービスネットワーク(NEAL-NET)において、船舶動静及びコンテナ動静に関する情報共有のための標準を構築し、2014年8月から港湾におけるパイロット事業を開始した。我々は、荷主・物流事業者のパイロット事業への参加を歓迎する。我々は、利用者ニーズ及び運営の状況を勘案しつつ、日中韓三国の間で構築したNEAL-NETのさらなる発展に向けて、適切に情報交換を行い、三カ国における対象港湾の拡大に努力するとともに、NEAL-NETの取組みをさらにASEAN諸国等の他国・他地域にも普及させるために相互に協力する。また、我々は、長期的には、物流情報を共有するサービスを海上分野から徐々に道路、鉄道、航空輸送、あるいは海陸複合一貫輸送分野に拡大するための方策について研究を開始するとともに、荷主・物流事業者の利便性向上に資する新たな機能に関する研究を推進する。

4.1.3 日中韓三国間の物流分野の協力を促進するため、我々は、物流関連の政策、規則、先進的技術、研究結果を共有するよう努力する。

4.1.4 我々は、低廉で環境にやさしい物流の構築を目指し、リターナブルパレットシステムの実現に向けて引き続き努力する。我々は、リターナブルパレットの利用を促進するため、リターナブルパレットに係る各国の制度・運用等に係る共同研究を推進するとともに、パイロットプロジェクトを通じて、長期的に、日中韓三国間のリタ

一ナブルパレットに係る関税免税の実行を推進するため、必要な制度を採用するよう共同で努力する。

4.1.5 我々は、北東アジアにおけるシームレス物流システムの実現に資するため、引き続き標準化されたパレットの普及促進に努めるとともに、そのための協力を継続する。また、我々は、パレットの寸法の標準化に加え、パレットの材質・強度及びユニットロードに係る国家規格化に向けて努力するとともに、パレット以外の通い容器の標準化の可能性に係る研究を促進する。

4.2 環境にやさしい物流の構築

4.2.1 我々は環境にやさしい物流の構築の方法を模索している。地球温暖化・大気汚染は地球規模の課題であるという共通認識の下、我々は、物流分野における温室効果ガス及び汚染物質排出の削減に努力することを約束する。我々は、前回の大臣会合以降、海運・港湾分野に係る共同セミナーの開催によるグリーン物流政策の情報交換、海上交通分野における船舶の省エネルギー運航に関するパイロットプロジェクトの実施等に取り組んできた。今後も引き続き、グリーン物流分野における協力を強化するとともに、国際会議で審議されている物流から排出される汚染物質に関して相互に協力する。また、日中韓三国は、各国におけるグリーン物流の構築に向けて今後も努力する。

4.2.2 日中韓三国においては、消費者の環境意識の高まりに応じて、環境にやさしい物流サービスに対する需要が高まっている。このことに関連して、我々は、日中韓物流大臣会合の下で進めている様々なプロジェクトが、環境にやさしい物流システムの構築に関して重要な意味を有していると認識している。我々は、こうした環境にやさしい物流に関係するプロジェクトを推進するために、我々の協力を強化するとともに、官民連携を進める。

4.3 安全かつ効率的な物流の両立

4.3.1 我々は、物流セキュリティの分野における人材育成の効果的な実施を含め、国際物流のセキュリティに係る環境変化に共同で対応するため、日中韓三国における現行の物流セキュリティ関係教育に関する情報共有と、当該三国の教育機関や関係専門家間でさらに効果的な教育プログラムの開発に係る議論を促進する。

4.3.2 我々は、物流のセキュリティと効率化の向上のための技術につき、日中韓三国の研究機関、企業による研究の協力及び促進に努力する。

4.4 その他関係分野

4.4.1 我々は、2013年11月に韓国・蔚山広域市において開催された、北東アジア港湾局長会議における成果に注目し、沿岸環境の変化と対策の効果及び北東アジアにおけるクルーズ振興について、確認された協力を促進する。我々は、次回中国において第15回北東アジア港湾局長会議を開催するという決定を歓迎する。また、北東アジア港湾局長会議の報告書を日中韓物流大臣会合において承認することに合意した。

4.4.2 さらに、我々は、北極海航路について、情報交換を通じた相互協力に努める。

4.4.3 我々は、北東アジアにおける物流分野の協力に係る効率的な共同研究のために策定された「日中韓三国における物流に関する共同研究に係るガイドライン」の下、共同研究を効果的に特定し、また、研究の実施過程において起こりうる問題を軽減するために継続的に努力する。

4.4.4 さらに、我々は、相手国で3PL事業を行う際に3PL事業者が直面する非物理的な障壁を低減させるように努力する。

4.4.5 我々は、物流システムはアジア地域において統合されていく必要があるという共通認識の下、パイロットプロジェクトとして実施しているユニットロードシステム教育プログラムのさらなる発展・普及に努めるとともに、ASEAN 諸国との物流分野の協力を探求する。また、我々は、物流ニーズについての相互理解を深めるため、関係する ASEAN 各国との協力についての研究を開始するとともに、ASEAN+日中韓の交通大臣会合(10+3)の構築可能性を模索する。

4.4.6 我々は、三国間で運用されている海上輸送の安全確保について約束するとともに、内航船の安全について各国の政策と情報の共有に向けて努力する。

5. 次回日中韓物流大臣会合は中国で開催する。

6. 中国と韓国の大臣は、日本側に大臣会合の準備と、中国及び韓国の代表団に対する暖かいもてなしに対する感謝の意を表した。

別添:2014 年版行動計画の進捗状況及び今後の計画

中華人民共和国交通運輸部を代表して

日本国国土交通省を代表して

大韓民国海洋水産部を代表して